

## えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から

現在、私たちの暮らしに  
身近な存在となつたスーパー  
マーケット。スーパーマー  
ケットとは、食料品を主  
体に日用雑貨や衣料品など  
家庭用品全般を取りそろ  
53（昭和28）年開店の「紀  
伊屋」、県内では57（昭  
和32）年開店の「主婦の店」  
（現在の松山市大街道1丁  
目）が最初とされている。

「開店12月21日」の日付し  
て、松山市立花1丁目の文字  
ぱいに書かれた「松山スー  
パー・マーケット」の大きな  
文字が目を引くポスター。  
和32年12月20日付に松山  
市立花1丁目に貼られた  
「松山スーパー・マーケット  
開店ポスター」。

## 松山スーパー・マーケット開店ポスター

### 黎明期の大規模小売店

販売を行う大規模小売店の  
ことである。その発祥は、  
1930年代のアメリカ  
で、日本では東京の青山に  
かな赤色の背景と左端いつ  
元高市商店跡地（現在の  
立花橋南詰）（現在の  
松山市立花1丁目）の文字  
情報をもとに愛媛新聞の記  
事を調べてゆくと、57（昭  
和32）年12月20日付に松山  
市立花1丁目に貼られた  
「松山スーパー・マーケット  
開店ポスター」。

今回紹介するのは、鮮や  
かないが、「立花橋南詰、  
パー・マーケット黎明（れ  
いめい）期のポスターだっ  
た。

中央には、エプロン姿の  
母親と女の子がおしゃれな  
包装紙に包まれた商品を抱  
えて楽しげに歩く姿が描か  
れている。その周りには、



松山スーパー・マーケット開店  
ポスター。1957(昭和32)年。県  
歴史文化博物館蔵

「食料品」「家庭用品一切」  
「現金で大量仕入」「なぜ  
に安い?」「奥様方の必  
ずお気にめす値段」「エプ  
ロンで気軽に!」のキャッ  
チフレーズが躍っている。  
全般的に昭和30年代に特徴  
的な丸みや流線形のデザイ  
ンが見てとれる。

開店日の下には小さく  
「開店日より五日間五百円  
御買上毎に映画の御招待券  
進呈」の文字が見える。昭  
和30年代に映画は庶民にと  
って人気の娯楽の一つであ  
った。県内には、56（昭和  
31）年に151館あつた映  
画館が、翌年には201館

に増加。そのうち35館が松  
山にあり、多くの映画館が  
ひしめき合っていた。映画  
の招待券がスーパー・マーケ  
ット開店の客引きに利用さ  
れたのも、そんな時代背景  
があつたからだろう。

このポスターには、「松  
山浴場協同組合」の押印が  
あり、銭湯に貼られていた  
ものと考えられる。湯上  
がりの人々が目にしたこ  
のポスターは、スーパー・マ  
ーケットに多くのお客様  
を招いてくれたことだろ

う。  
(専門学芸員・宇都宮美紀)  
△随时掲載します△